

起こるべくして

起きた事故

30代医療関係者／死亡ひき逃げ

2

日間の講習を受けて、改めてこれまでの運転を振り返り、起こるべくして起こした事故だったのではないかと痛感しました。

いつも通り慣れた通勤路。朝方、時間も早く車も人通りも少ない時間帯の点滅信号の交差点。自分の進行方向は黄色点滅でしたが、徐行することなく約50Km/hくらいで交差点に進入し、左側から来たバイクと衝突しました。

その際、私は車を止めることなく、その場を離れました。

結果、相手の方は亡くなり、私は実刑判決が下されました。

正直なところ、当時の私は少なからず判決に不満を持っていました。しかし、刑務所に行ったことで、考え方がものすごく変わりました。

なぜなら、私が受刑者として行った刑務所で、交通事故被害者遺族の会の方々と話しをする機会があり、そこで初めて遺族の気持ちや生活環境の変化などにつて知ることができたからです。自分自身の交通事故のご遺族ではないにしろ、厳しい言葉も言われましたし、励まされもしました。

その中で、「運転免許の再取得」についてはものすごく悩みました。家族にも相談しましたし、ご遺族には伝えるべきかなど、弁護士とも相談しました。

自分の中では、免許がいらない東京での新しい生活も考えましたが、金銭的に難しかったこともあって、欠格期間が過ぎても地元から離れず

生活し、また講習も受けていませんでした。

ただ現在、仕事で実習が始まり、その実習先が遠いことから、これを機に受講して運転免許の再取得をしようと思いました。

事故当時、運送関係の職に就いていたこともあり、私生活の運転でもスピードを出すこと無く、周りからは「安全運転だ」とよく言われていました。

他のこともですが、自分で自信があることには、「絶対に自分なら大丈夫」という過信した気持ちを持っていました。

また、何事にも順応するのが速い方で、慣れると調子に乗るタイプでした。過信や慣れからくる慢心により、今回の交通事故は起こるべくして起こしたのだと、当時を振り返り、本当に思います。

今回の講習で行った適性検査の結果でも、同じようなことが書かれていました。

また、シミュレーターでの単純反応検査では、「反応速度が遅い」という結果でした。

これらの結果を踏まえ、時間だけではなく「精神的にもゆとりが持てる生活」を心掛け、安全な運転ができるようにならなければいけないと思いました。

「いつ自分がまた加害者になるかも知れない。被害者になるかも知れない」という危機感や緊張感を持って、今後の安全運転に臨んでいきたいです。